

平成25年度事業報告

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

1. 避難者を支える活動

(1) 事業の成果

情報提供と相談業務を当法人の中心事業と位置づけ、東日本大震災による「避難者を支える活動」を行った。

【 情報提供・相談業務事業 】

本事業では、昨年度の経験を生かしつつ、相談業務・訪問活動またアンケートなどにより、避難者の視点から改めてニーズを捉え、避難者の抱える様々な問題に総合的に向き合っていき、一人一人の実情に合わせた支援を行うように努めた。

特に、孤立したままの避難者、相談できないで悩みを抱えている避難者を減らせるよう交流会の機会を増やし、また、避難者宅への訪問活動を開始させ、今まで交流会などに来れなかった方や個別にゆっくり相談したい方への対応を行った。

【 被災者・避難者の『命と尊厳』を守るための事業 】

① (交流会事業)

愛媛県内および香川県の避難者との交流会および参加対象を定めた交流会を行った。また、交流会を避難者の生きがいづくりの機会となるよう考慮した。

② (健康診断実施事業)

避難者からの要望が多かった甲状腺検査をはじめとする健康診断を愛媛生協病院の協力の下、実施した。合計で37人の避難者・移住者が健康診断を受診し、当法人は、受診日の案内、受付窓口を担当した。

③ (愛媛県内関係者間の総合調整事業)

避難者支援事業を行なうため愛媛県内の避難者支援に係る関係者間の情報交換会を行った。会を開催しない月は、情報交換を書面で行った。

日常的に情報の共有を行えるネットワークづくりの構築を図ったことで、様々な問題を抱えた個々の避難者への相談を受ける側として不安のない対応ができることにもつながった。

④ (四国内ネットワークづくり事業：JCNからの委託事業)

広域的な避難者支援事業を行うための協議ができ、連携をとることができた。また、全国の会議などにも出席し、情報収集や他団体とのつながりができ、活動内容の見直しや支援を継続するための手法などを学ぶことができた。

【 自立支援事業 】

自立支援事業としては、避難者、避難を考えている人々に求人情報の提供・支援を継続した。えひめ311の直接的な事業として計画していた「製菓加工品事業」（避難者自立・交流促進の拠点づくり事業）は実現しなかった。

（2）今後の課題

【 情報提供・相談業務事業 】

相談窓口を避難者コミュニティサロンとし、何かの目的を持って通えるような場として確立させたい。（例えば、宿題支援、子育てサロンなど）

心のケア法をスタッフ自ら学び、相談窓口としてのスキルアップにつなげていきたい。

【 被災者・避難者の『命と尊厳』を守るための事業 】

①（交流会事業）

今年度できなかった交流会に関するアンケートを行い、どんな交流会なら参加したいかを訊ねる。交流だけでなく何かをプラスし、より有意義で意味のある集まりにしていきたい。

②（健康診断実施事業）

避難者・移住者から今後も継続してほしいとの声が大きかった。長期休暇などを利用した健康診断の実施、その後のフォローアップを引き続き行っていきたい。

③（関係者間の総合調整事業）

ネットワークを広めていきたい。各部署の方から意見や提案を聞ける場として、情報交換会を続けていきたい。また、避難者の抱える問題を共有し、今後の支援体制につなげていきたい。

④（四国内ネットワークづくり事業：JCNからの委託事業）

四国内の支援団体とのネットワークをより強いものとし、避難者一人一人に寄り添える支援を四国内で同じ基準で展開できればと考える。民間団体とだけでなく自治体とも連携をとり、避難者の抱えている問題などをアンケート調査し、結果を共有し、今後のニーズ把握につなげていきたい。

【 自立支援事業 】

「製菓加工品事業」（避難者自立・交流促進の拠点づくり事業）は、社会福祉振興助成金を得ることができなかったため、実施できなかった。長期避難の中にある方々にとっては自立と交流促進は必要な支援であり、効果的な事業を考えていかなければならない。

(3) 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
情報提供・ 相談業務事業	<ul style="list-style-type: none"> ・情報受発信の本拠地としての機能を置く。 ・相談窓口を開設し、電話、メールでの受付を行う。 ・相談の内容によっては専門家を紹介する。 ・避難者訪問活動 ・機関誌を発行し、情報提供 ・健康診断実施 ・医療・生活に関するアンケート実施 	通年 メールは 24時間受 信可能 通年 毎月11日 通年 3月	主たる事 務所	4人	被災者、避難者及び関係者、これから移住、一時避難などを考えている方々	1242
被災者・避難者の『命と尊厳』を守るための事業	<ul style="list-style-type: none"> ・県内避難者交流会 ・各種交流会 <ul style="list-style-type: none"> 東北に戻った方の交流会 着物を楽しんでみませんか 愛媛のじゃこ天作り教室 畑で遊ぼう IN 丹原 健康に関するお話会 ・四国避難者交流会 ・健康診断実施 ・愛媛県内避難者支援団体情報交換会を開催する。 ・四国内ネットワークづくり事業 ・四国内避難者支援団体を各訪問 ・広域避難者支援ミーティング 	毎月 6月8日 11月17日 11月18日 12月15日 3月7日 3月16日 通年 10月15日 3月19日 通年 11月8日	石手寺 愛媛大学 一草庵 緒方蒲鉾 丹原農園 生協病院 霧の森 愛媛生協病院 愛媛県内 主たる事務所 高知県内	4人	毎月約15名 35名 9名 4名 24名 19名 24名 37名 参加団体計 17団体 参加団体8団体	201 701
自立支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・求人情報の提供 他 	通年	主たる事務所	1人	被災者、避難者	

(4) 写真

(相談対応)



(着物を楽しんでみませんか交流会)

(事務所内様子)



(健康に関するお話し会)

(交流会でトーンチャイム演奏)



(四国避難者交流会)



(広域避難者支援ミーティング I N四国)



(第1回情報交換会様子)



(第2回情報交換会様子)



2. 被災地の復興に向けた活動

(1) 事業の成果

【被災地への継続的な支援を行うための事業】

① (保養キャンプ事業)

初めて主催での保養を開催した。年齢や地域の限定などはせず、放射能に不安を抱える親子を対象に募集を行い、2014年3月28日～31日の3泊4日で、福島・東京・千葉から6世帯16名を受け入れた。受け入れに当っては、愛媛の地域の方々に協力してもらい、参加者がわずかな間でも日常の不安や制限を忘れ、のびのびと楽しく過ごせる時間になるよう心がけ実施した。

■ 参加者の感想 ■

・ えひめ311の活動を見て、どうして大人たちがこの活動をするのか、子どもたちには自分で考えるようになってくれたらいいなと思います。私自身も避難、移住され、支援する側にまわった、えひめ311の皆様の活動に勇気をいただきました。皆様に命を守るお手伝いをさせていただいた子どもたちをしっかりと守っていけるように、これからも頑張ります。

②（ボランティアバス事業）

1月9日～14日の日程で宮城県・福島県視察、仮設住宅でのうどん作り体験、双葉ダルマ市での出店を行った。南三陸町の現地視察では、災害ボランティアセンター局長の話を伺い、継続的な支援の必要性を考えさせられた。南相馬市の仮設住宅でのうどん作りによる慰問活動では、限定15名で手打ち体験、また200食分のうどん炊き出しを行った。一緒にみんなで手を動かし、共に楽しむ時間を作ることができた。双葉ダルマ市では、じゃこ天と今治タオル、伊方町の物産を安価で販売し大盛況だった。愛媛の皆さんの思いを届けることができた。

③（福島への農産物販売事業）

福島を中心とした地域の人々への柑橘を主とした農産物販売を行った。特に被災地では馴染みのない河内晩柑が喜ばれ、農産物を通じてつながることができた。

④（311追悼植樹事業；認定NPO法人瀬戸内オリーブ基金からの委託事業）

東日本大震災で亡くなられた方のご冥福を祈る、震災の記憶を風化させない、防災減災意識を高めるなどを目的とした311追悼事業を受託し行った。瀬戸内沿岸の地域のNPO団体に追悼植樹の広報を行った。結果、14団体の助成が決定し、植樹を行った。

■ 助成団体 ■（順不同）

綾川ウッズ・NPO法人どんぐりネットワーク・真平山会・高松第一小学校PTA・伊吹島研究会+瀬戸内オリーブ基金・NPO法人NPO今治センター震災復興支援「チーム今治」・石手寺・菜月自然農園・一般社団法人愛媛県空調衛生設備業協会・NPO法人地域支援の会さわやか四万十・3.11メモリアル愛大実行委員会・綾川里山管理同好会・愛媛生協病院・NPO法人環境とくしまネットワーク

（2） 今後の課題

①（保養キャンプ事業）

参加した保護者アンケートの改善要望として、宿泊施設と交通手段が挙げられたため、改善できるよう努めていきたい。求められる保養の形は、各世帯さまざまであったが、その中から、えひめ311らしい保養を提供していきたい。

主催者としての色々な課題もみえてきた。次回の開催には反省を生かして、より良い受け入れ態勢を整えていく。

今後は、子どもだけの長期保養の受け入れや、1年中使える保養・移住の下見用のシェアハウスの確保、保養弱者と呼ばれる子どもへの保養機会の提供も考えていく必要がある

②（ボランティアバス事業）

募集前に事前説明会を行わなかった為、参加者に戸惑いを与えることになった。

慰問活動については、長期避難を強いられている方々への継続的な実施が求められていると感じた。訪問先や仮設住宅の方々と一緒に楽しみながら行うプログラムを考えていきたい。

③（福島への農産物販売事業）

担当者がいなくなり、年度前半で販売が休止してしまった。年間通して事業が行えるように努めたい。

④（311追悼植樹事業；認定NPO法人瀬戸内オリーブ基金からの委託事業）

昨年度は、初めての事業ということもあり、スムーズに進めることができなかったため課題は多い。昨年度を振り返り、応募期間に余裕を持ち、興味を持っていただけた団体に丁寧に説明できるよう努めたい。

(3) 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
被災地への継続的な支援を行うための事業	①保養キャンプ事業	3月28日 ～31日	愛媛県内	2名	参加者19名	754
	②ボランティアバス事業	1月9日 ～14日	福島県内		参加者11名	333
	③福島への農産物販売事業	通年	福島県内		福島県内の方々	270
	④311追悼植樹事業	1月～3月	瀬戸内沿岸		14団体	92
	⑤その他 ・スタディーツアー引率 ・いよかんメッセージ	8月 3月11日	福島県内 宮城県		愛媛大学生20名	

(4) 写真

(保養キャンプ)



(ボランティアバス)



(スタディーツアー)



3. これから起こる災害に備える活動

(1) 事業の成果

【 講演会やワークショップ、展覧会等開催事業 】

① (3 1 1 を教訓にえひめのまちづくりワークショップ開催事業；愛・ウエーブ助成金事業)

主催したワークショップでは、震災を風化させない取り組みと同時に、防災・減災ワークショップを開催し、愛媛県民に3 1 1を教訓とした、防災意識の向上の啓発をおこなった。ワークショップでは必ず学ぶ場(基調講演)を設定し、専門家から意見を聞くこととした。そうすることで、より積極的な参加型ワークショップになったと感じている。

② (講演会開催事業)

震災の写真や映像を使い東日本大震災を振り返り、愛媛県でも被害が想定されている南海地震をはじめ起こりうる様々な大規模災害を強く意識し、備える必要があるということを愛媛県民に認識してもらう活動となった。昨年度に比べ講演会の依頼は増加し、分野も多様である。3 1 1というキーワードを元にいろんな角度から伝えていくことは大切である。

また、宮城県気仙沼市から垣下理事を招いたことで、被災地の現状や生の声を愛媛に直接届ける場を設けることができた。

(2) 今後の課題

【 講演会やワークショップ、展覧会等開催事業 】

① (3 1 1 を教訓にえひめのまちづくりワークショップ開催事業；愛・ウエーブ助成金事業)

助成金は終了したが、この事業は、愛媛県民に災害の恐さや備えの大切さを伝えるものであり、震災を経験した当事者たちができる地域貢献でもある。今後も継続していきたい。

② (講演会開催事業)

日常業務に手をとられ、イベントの内容を十分企画・実行できなかった。自分たちで主催したものは少なく、協力という形が多かった。今後は、積極的に取り組んでいきたい。

広報周知が不足のため、イベント参加者がなかなか集まらなかった。参加者を増やすための方法を考えていかなければならない。

(3) 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載 した事業)	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事 の人	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
講演会やワー クショップ、 展覧会等開催 事業	【311 まちづくりワークショップ】					
	・愛媛県危機管理監による基調講演、その後グループワーク	4月13日	愛媛大学	3名	参加者 25名	645
	・三津浜フィールドワーク	7月28日	三津浜地区		参加者 15名	
	【講演会】					
	・垣下氏『今の東北の現状』	6月8日	愛媛大学		参加者 約50名	
	・新居浜協立病院学習会	4月23日	協立病院		参加者 約20名	
	・久万高原女性消防クラブ	5月1日	久万消防		参加者 24名	
	・蛸まつり	6月1日	双海町		参加者 約30名	
	・医療生協医師団	6月2日	医療生協		参加者 約30名	
	・古川ふれあいセンター学習会	6月12日	古川		参加者 28名	
	・愛媛県災害ボランティア研修会	6月30日	県社協		一般市民	
	・大街道マルシェ	7月7日	大街道		一般市民	
	・愛媛大学 平和学	7月16日	愛媛大学		愛媛大学学生	
		11月21日	愛媛大学		愛媛大学学生	
	・防災頭巾ワークショップ	8月4日	余戸地区		参加者 約10名	
		8月18日	松山社協		参加者 約40名	
	・愛媛県教育センター学習会	8月7日	教育センター		愛媛県教職員	
	・キャンプ事前学習会	8月19日	今治		キャンプ参加者	
	・福島ダイアログ	9月23日	愛媛大学		参加者 約20名	
	・生涯学習センター講座	9月25日	生涯センター		参加者 4名	
	・震災と人権	9月28日	川付地区		参加者 約15名	
		11月30日	久米地区		参加者 約10名	
		1月18日	南窪田地区		参加者 約15名	
		2月1日	高井地区		参加者 約20名	
	・湯山中学校人権講演会	10月10日	湯山中学校		湯山中学1~3年	
	・松山市災害ボランティア養成講座	10月19日	松山社協		参加者 約50名	
		11月24日	松山社協		参加者 約50名	
	・高齢者まつり	10月26日	大街道		一般市民	
	・防災キャンプ	11月6日	新婦人の会		参加者 約10名	
	・人権学習会	11月6日	愛光学園		愛光高校2年生	
	1月29日	愛光学園		愛光高校1年生		
・新居浜市役所ロビー展	11月9~15	新居浜		新居浜市民		
・愛媛県人権同和教育大会	11月13日	北高校		参加者 約200名		
・エールプロジェクト	12月1日	新居浜		参加者 約100名		

講演会やワークショップ、 展覧会等開催 事業	・松山市人権フェスティバル	12月8日	コミセン	一般市民
	・東雲地区防災訓練	12月8日	東雲小学校	東雲地域住民
	・防災シンポジウム	1月19日	コミセン	参加者 約300名
	・城辺中学校 人権学習会	1月30日	城辺中学校	城辺中学1~3年
	・震災復興イベント	2月26日	コープ愛媛	参加者 約50名
	・松山市防災減災・復興イベント	3月9日	大街道	一般市民
	・311を忘れないでイベント	3月11日	松山市総合福祉センター	参加者 約100名
	・内子小田公民館	3月12日	内子小田	参加者 約20名
	・NPO交流会	3月23日	愛媛県社協	NPO関係者
	・愛媛の地からバザー	3月26日	華屋衣装店	一般市民

(4) 写真

(311を教訓に！えひめのまちづくりワークショップ)



(気仙沼在住垣下理事による講演会) (防災頭巾ワークショップ)



(新居浜市役所ロビー展)



(福島ダイアログ)



(東雲地区防災訓練)



(東北応援チャリティーバザー)



【 金額内訳書 】

1. 未収金 502,200円

平成26年3月31日	福島ふるさと帰還支援事業	250,000円
平成26年3月31日	JCN地域調整員委託事業	160,000円
平成26年3月31日	311追悼植樹事業	92,200円

2. 未払金 23,628円

平成26年3月31日	3月分車両保険料	12,010円
平成26年3月31日	農産物仕入未払い分	3,900円
平成26年3月31日	3月分メール便支払い分	800円
平成26年3月31日	3月分電話代	6,918円